



○永村座長

どうもありがとうございました。

当初予定をしておりました時間を大体 45 分オーバーしてしまいました。スピーカーの方々、大変熱が入りまして、ほとんどの方がもっと時間があればなという感じの中身であったかと思えます。大変残念ですが、あと 15 分ほど時間がございますので、どのスピーカーに対する御質問、御意見からでも結構ですから、どうか手を挙げていただいて。

○質問者

林先生にお伺いします。

今度の法律で、罰則が 300 万円、それから 1 億円という話が出てたと思うんですが、虐待の定義がはっきりしないとどうしようもないと思うんですね。例えば小児虐待でも、親のほうはしつけのつもりでやってたんだけど死んじゃったということは、恐らくペットの世界でも同じだと思うんですね。その辺について、ちょっと伺いたいんですが。

○林 良博

今回の検討小委員会でも、虐待の定義を明確にすべきだという、かなりの方がそういう御意見で、私も全く同感です。しかし虐待の定義が明確でない現在でも、懲役 1 年、100 万円の罰則があります。どうやって決めているのか。これは、法的に言いますと、きちっと定義してその定義に基づいて決めていく場合もありますが、アメリカの法律のように、具体的な事例が起きたときにそれをどう考えるか。それを積みあげていって最終的にしっかりした定義にするという法律のあり方があります。日本は、今おっしゃいましたように、虐待の定義を明確にしないといけない段階に入ってきているというふうに思います。

○質問者

一般の人が虐待と思うような、例えばネグレクトだとか、あるいは棒でぶん殴ってるとか、そういう状況を見て公安当局と警察に訴えたときに、それで警察が

動いてくれるかどうかということが心配になるんですが。

○林 良博

おっしゃるとおりです。特にネグレクトの場合は、なかなか警察は動きませんね。それで、あちこちに不満が起きていることも事実です。むしろ最高刑のほうではなくて、実際にこの行為が法律に反することなのかどうかというぎりぎりのところをはっきりさせて、法に基づいて警察に動いてもらうことが大切です。そのために虐待の定義を明確にしなければいけないという論議も、この間、させていただきました。

○質問者

ありがとうございます。

○永村座長

ほかに、ございますか。

はい、どうぞ、一番後ろの方、女性の方。

○質問者

8 週齢規制のことで伺いたいんですが。今、私、ツイッターで愛護団体の方とかとよく意見を交換とかしてるんですけども、いわゆる 8 週齢に興味のある一般の方々なんですけど、そういうデータとか、そういうことが余り詳しくない方々の意見なんですけども。8 週齢が今回通らなかった場合、パブリックコメントが 1 万 2,000 件以上来ていて何も法律が変わらなかった場合、一般の方々が思うことというのは、「やっぱり、今、ペット業界は伸びているからお金のほうに傾いてしまって、行政というのは、命のほうを大切にしないのかな」というコメントが、今、ツイッターの中ですごくたくさん出てるんですが、先生はいかが思われますでしょうか。

○永村座長

これも、林先生に。

○林 良博

私の期待としては、今回三つの案は数値をはっきり出していますので、どれかは必ず通るだろうと思えます。この法律は国会で全会一致で通すというのがこれまでの慣習になっていますので、恐らく妥協がどこかで起きると思います。

かつてアメリカの禁酒法が失敗した例を見てもわかるんですが、登れないステップを設けると、アンダーグラウンドの悪い人間たちがのさばるだけです。

この法律は、5 年ごとに改正することができるのは、着実にいい方向に向かおうとする現実路線を大切にしているからわたしは理解しています。

8 週というの、これまでも他の国がやってるから

というだけで科学的な根拠はありません。それなら8週よりも9週のほうがいいのか、9週よりも10週のほうがいいのかといえば、飼い主との関係性を築く上で問題が発生する恐れがあります。わたしは、こんなこと言うと誤解を受けるかもしれませんが、繁殖業界がもっと立派だったら繁殖業者のもとに置いときたいんですけども、日本のすべての繁殖業者がそれに耐える状況になってるのかどうか疑問であるということを考えてみると、早く優秀な飼い主のほうに送ったほうが犬にとって幸せであるという考えもあります。5年前から8週齢問題という、8週齢という言葉が一人歩きしている。こちらのほうがむしろ問題だろうと思っています。

○永村座長

ありがとうございます。

○質問者

済みません。ちょっとそれで、よろしいですか。

○永村座長

ちょっと、ほかにも聞かれない方がおられるんで、はい、どうぞ。

○質問者

同じ路線の話になってしまうかもしれないですが、是非を問う前に、先ほど7週齢の科学的根拠と先生の御意見でおっしゃってますけど。多分、時間の関係で今回お話になってないと思うんですが、ぜひ、その7週齢の科学的根拠と、あと、さっきおっしゃってた盲導犬協会は50日でパピーウォーカーさんに引き渡す。それが56日になると大変なことになってしまうという、その理由をそれぞれ教えていただけるとありがたいです。お願いいたします。

○永村座長

ちょっと、林さんに集中していますが、また、よろしく。

○林 良博

サーベルという、先ほども私の隣の内山さんが紹介されました。彼は日本で翻訳されている重要な本は、「犬」という本ですね。

それから二つ目は、わたしは「50日が56日になると困ることが起きる」と言った意味ではありません。むしろ、盲導犬協会ですら実績がある50日で何の問題も起きてないということのほうが、むしろ重要ではないかと思います。生後50日後に子犬を育ててくださる方に渡しているわけですから。これで、何か問題が起きているのであれば訂正すべきですけど、50日というのは今まで日本では実績がありますよという、そういう意味です。

○女性

ありがとうございます。

○永村座長

どうか、ほかのスピーカーの方にも。大変興味深い話がたくさんあったと思うんですが、どうでしょうか。

動物愛護法の改正の小委員会の議事録、環境省のホームページで見ることが出来るんですね。ホームページで読まれば、きょう、スピーカーの林先生がおっしゃったことももちろん出ておりますし、それ以外のことも議事録に載っておりますから、どうか、一度見ていただければと思います。

あと、5分ほどございますけれども、いかがですか。じゃあ、なければ。

○質問者

村田先生に、ちょっと一つ質問があるんですが。パピークラスの中で、最近すごく話題になっているのが異物誤飲って、犬がいろんな異物を食べてしまうという話がありまして、要するに異物誤飲自体をパピークラスとか、しつけとか、そういったものを通して、飼い主さんも含めて少し減らすことができるのかどうかということが、ちょっと知りたかったんですけども。

○永村座長

よろしいですか、村田先生。

○村田香織

難しい質問をありがとうございます。

多分、その話になるとすごく時間がかかってしまうと思うんですけども。パピークラスで予防的にやっていることは、無理やり取り上げるのではなくて、取り上げた後、お利口と褒めて、御褒美を上げるという、ちょっぴりの練習をしていただくとか、そういうことをやっています。

あと、私は、多分、異物を誤飲するというのも、ブリーダーさんの役割がちょっとあるんじゃないかなと思って、余りにもクリーンなところで、何の刺激もないような状況で飼われていると、逆に子犬のときはいろんなものを確認して、全部、人間の赤ちゃんのように口に入れて、確認して出すということするんですけども、小さなときから何にもそういう経験なくして育った子は、何か確認するときにも、既に飲み込む、これ、エビデンスがあるわけじゃないんですけども、飲み込んでしまうというケースが結構あるのかなと、自分で見ていて思います。

あとは、加えるものをあげるとか。とにかく、取る取るじゃなくって、必要なのでかんでるわけですから、かんでもいい物を与えてあげる。安全なかむ物を与え

てあげるといようなことも、すごく大事かなと感じています。

○質問者

ありがとうございます。

○永村座長

ありがとうございました。

もう1人、おられましたね。手を挙げて。

○質問者

林先生の8週齢のところに、ちょっとだけ、もう一つお願いしたいと思います。

今日も、たくさん行動学の方がいらっしゃると思いますので、そういう方々の意見も出てるとは思いますが、人が飲酒だとか喫煙などの法律を決めるにあたって、人類もさまざまな人類がいる中で最大公約数、やっぱり安全とか健康とかいうものを考えて、幸せのための法律をつくってるはずですから。林先生という先生がいてくださるので、先生に踏ん張っていただいて、本当によい親と、よい兄弟と、いかに犬としての基本的なものを身につけさせてあげれる時期はどこなのかというところを、どうか一つ先生の力で。

先生にいっぱいみんな文句を言いたいと思ってるかもしれませんが、今度は先生に本気になって、いいブリーダーさんをたくさん育てて、そして本当に親と一緒にいるのが8週齢という言葉たくさん出てくるんですから、シーゲル先生の確かに言葉もよくわかりますけれども、本当に人類と同じように動物の健康のために、最大の、先生、努力をしていただきたいと思います。皆さん、その願いを持って先生に注文してるつもりですので、ぜひよろしくをお願いします。

それから、誤飲と言います問題ですけど、これは、私たち臨床で、私、夜間診療しておりますが、急患診療を。その40%が誤飲です。これを防ぐということは、人類と一緒に室内で暮らすことによって起こってる最大の問題です。そのために内視鏡かけたり、催吐剤をかけたり、おなかをあけたりという大変な問題がたくさん起こっています。これがないことを、夜間診療の先生方を救うためにも、動物のためにも絶対避けなければいけないんですね。

これのとても大事なことは、犬という動物は、もう獲物を捕ったら、ほかの動物に取られまいとしたら、たくさん飲み込んでいって、また嘔吐して食べ直すとかいうふうに、巢の中へ持って行って、子犬や待てるもののために嘔吐してでも飲み込んでしまう。取られるんだったら飲み込んでしまうという基本的な習性があるわけですから、飼い主さんの教育がとても大事

なんです。

飼い主さんに、わんちゃんたちが危ない物を加えたら、「ちょうだい」ではなくて、それからまた、「だめ」と言わないで、なかなか大変なことですよ、そういう変な物を加えているときに言うことは。飼い主さんが落ちついて、「ちろちゃん、こっちょ」と、こういうふうに優しい声を出したげるんですね。そうすると、「ちろちゃん」と呼ばれたら、御褒美かなって飼い主の顔を見たときに、「ちょうだい、こっちのあげるから」と、こういうふうにしてポロンと落とすのを待ってとらないと。ほとんどの方が目撃してるんですね。危ないと思って、「ああ」と言ったときに飲み込んでるんです。そういうことの教育を、ぜひ皆さん飼い主の方が子供を連れるんだったら、安全のために覚えていただけたら随分症例は減るなど、こう願っておりますので、よろしくをお願いします。

○永村座長

ありがとうございました。

では、林さん、どうぞ。

○林 良博

本当に私もそう思っています。日本にはペットに関する科学的データが不足していますが、犬については麻布大学の菊水さんに注目してもらいたいと思うんです。現在、菊水さんが今2,000例ぐらい症例を集めて、やはり早く離しすぎると問題が起きてしまうということを実験で証明しつつあります。

菊水さんと電話で話して、彼も今回は7週でいったほうがよいという意見に賛成でした。若い研究者ですが、日本でいろんなことを考えた場合、7週が現実的かなという、そういう判断に落ちついたのではないかと思います。私の横にいる内山さんは、馬でちゃんとしたデータ取り始めていますから、産業動物に後れをとったコンパニオンアニマルの研究も、研究費がつけば進むと思います。先ほどおっしゃっていただいたように、人と動物の関係学はまだ未完成というか、立ち上がったばかりの学問で、研究費も少ないということもあります。だから、ぜひ若い研究者を応援してあげていただきたいなと思います。ありがとうございました。

○永村座長

ありがとうございました。

それでは、予定の時間になりましたので、これで閉じたいと思います。どうも御協力ありがとうございました。

○事務局

永村理事長、ありがとうございました。

長い間、座をまとめてくださいました永村理事長に、もう一度、皆さん拍手をお願いします。

本日は本当にありがとうございました。このような深いシンポジウムを御主催くださりまして、事務局より、改めまして社団法人ジャパンケネルクラブ、そしてサポートくださいましたマースジャパンリミテッド様、そして、みずから御発表もくださいました石山副社長に、改めて御礼を申し上げたいと思います。本当にありがとうございました。

この後、閉会式を行いますので、和楽のお部屋のほうに、閉会式、皆様御一緒にクロージングを迎えていただければと思います。どうぞ、御移動お願いいたします。



おいしく食べて、  
しっかり歯みがき。



歯みがき専用ガム

デンタX<sup>®</sup> エックス<sup>®</sup>

食べる、くわえる、じゃれる。  
お口を使って毎日を楽しむ  
愛犬のために、デンタエックス<sup>®</sup>。  
高弾力のX型を噛むことで、歯垢を  
落として、ニオイをスッキリさせます。



噛むことで  
最大80%  
(平均50%)  
歯石の蓄積を  
抑える

\*マース社調べ

イメージ図



毎日続けられる低カロリー\*

\*1本当たり  
超小型犬用 約22kcal  
小型犬用 約49kcal  
中・大型犬用 約65kcal

マース ジャパンお客様相談室 TEL:03-5434-3434 (受付時間 9:30~16:00 土・日曜・祝日を除く)  
www.marsjapan.co.jp ®Registered Trademark. ©Mars Incorporated, 2011.

毎日の歯みがき習慣を、楽しくしましょう。